

安全にプログラムを実施するために

自然の中での活動は思わぬ事故を引き起こすことがあります。

また、活動で扱う刃物や火などは便利な反面、使い方を誤ると自分や仲間を傷つける可能性があります。

体験活動を行う際には、「大丈夫だろう」ではなく、「(事故が)起こるかも知れない」と考え、起こりうる危険を自ら探しながら活動することが大切です。事前に危険な場所を把握し、事故の起こる可能性を考えて安全に活動してください。

大滝げんきプラザ 安全ガイド 「キャンプファイヤー」

代表的な危険内容(これは一例です)

- トーチの持ち手に灯油が流れる
- 組まれた藁の中に指定されたもの以外を入れる
- 火が付いた後に灯油を入れる
- 燃えやすいものが近くにある
- 虫よけスプレーや殺虫剤の缶に引火する
- 近づきすぎる、火に触れる
- 風で火の粉が飛ぶ